

戲作
四書京傳餘師

山東京傳著

豐後
申

特
遠
1017
2



門へ 13
辨
卷

豊後

此長幕茶番而時語之不肌柳橋乎

有隙日待夜來未茶飯食

意氣席中
人不聞而

乎
不喜不亦素人乎

土佐上下外記袴半方羽織小義右股引豊後
うあひる丸襟といひつゝ予等がまゝの前のりあて今

京傳餘師

豊後

豊三堂藏板

歌牧笛樂あらざらむとてか一固りの豊後郡の文章小
 色類多く音声嬉乱かりあつてもどもまことのよきつり
 ようてまんざら姑の小さるる士の惣もまことあつたま
 試ふ一ツ二ツをのぞん言尾懺悔とさよらつたおの字の名
 をつひことのみ文句あり曲れよ女子許嫁して算而字
 は清きまのまの又おまの清るり小唯うつむひてあんま
 りまのこのみ文句あり詩曰奏假無言といはたぐひあや
 言ふ又さる形なふお格子をあつらひ竹の管まづれり
 ける清るり此秘を古おあり教れよ難波津野路橋と檉
 山流あつてあつたり火とや一はこ入ある二人の若のさ

も年季ののころく一人の澄深のうのさをしてさりの
 おぬぐひを肩あけ一人の伊勢結の布る小格子のあられ
 ぞめも角のつらさを深るるおぬぐひをうこふけりか
 きも湯ごうとる之門口を伊八サア源助どんつらり
 源助マアまなふくらせ伊ナンノかまうことわぬさだの
 くらりか源とやアとどめなつらまなぬさだ入ス
 らり伊そんならつらり小使を二つあらうとト
 とまののころやのちちらモレをけり小使のありません伊ホーありやア由免
 あせ入大ららひご下又むののどぐくそのあを
 栞どあつて伊ころちサ栞ヲヤ伊八さんうあぐんあせ入る

京傳餘師 豊後 三十一 三十一 三十一

伊サア源とあざらうート 二人由入る内のちたたてをそとるうう小柳
子口のちたのけいむかしく状さしとあり
 厚風のくちひらに花衣のまろ物とまりまろをか後座のしちのらん
 小き身せんこの糸をひゆふつけるぬる糸くけてある 栞 栞のあひうら
 のいづれを袖かひひのろをまきくろまげしとんそのあひをいぬ
 ありひづるこえんてわらでたまねこひつめあまごいけややまや
 一ゆこころいであてそのあまを 栞 伊八さんけいあをりくで
 うらまゝかてあまを

おぎふやーたモレをまこころちらもらであせ入ー 源 源ア

イこころいづれを袖かひひのろをまきくろまげしとんそのあひをいぬ

ありひづるこえんてわらでたまねこひつめあまごいけややまや

一ゆこころいであてそのあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

うらまゝかてあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

おぎふやーたモレをまこころちらもらであせ入ー 源 源ア

イこころいづれを袖かひひのろをまきくろまげしとんそのあひをいぬ

ありひづるこえんてわらでたまねこひつめあまごいけややまや

一ゆこころいであてそのあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

うらまゝかてあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

おぎふやーたモレをまこころちらもらであせ入ー 源 源ア

イこころいづれを袖かひひのろをまきくろまげしとんそのあひをいぬ

ありひづるこえんてわらでたまねこひつめあまごいけややまや

一ゆこころいであてそのあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

うらまゝかてあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

おぎふやーたモレをまこころちらもらであせ入ー 源 源ア

イこころいづれを袖かひひのろをまきくろまげしとんそのあひをいぬ

ありひづるこえんてわらでたまねこひつめあまごいけややまや

一ゆこころいであてそのあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

うらまゝかてあまを 栞 伊八さんけいあをりくで

源氏物語 卷之三十一

三十一 源氏物語

あせ入ト源ゆきまののち
 よろのり
 あまゆいたしんごんや入 伊お
 むひそがむちぢアあまのころららアおたよ木兼座と
 えらまる 栞 伊八さんあまの源明丹入 伊八さんあまのけり
 つけ又こまあまいさや一たまこいひまあしむるぶあつ
 あまのあまをさうこいひまのふのたまこいひ
 こまひめつたたまをだらけを南二をさうこいひ
 があまの何サトだ 栞 あまやアのふの何あつ
 モシかさんちまんとあま
あまのふりけいあまをさうこいひ
 てやうこをあけ口ふらこいひ
 母あむやアのうあありがたよあまのあま
あまのふまびん
 あまあひ
 ちやをさうこいひあまをさうこいひ南一の 栞 伊八さんおころひ
 ひうらんのやあまをさうこいひのあり
 あり人のめいあまあむた 伊フウとあまのいひあまの
 栞

百川お座あまが何のりよさ 伊頃目のぎよさ
 りゆま 栞 あまのあまのあまのあまの
 源ゆいたまあまのりよさ
 さのりよさあまのあまのあまの
 伊コウ源まをさうこいひあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまの
 栞 栞松のめいあまのあまのあまの
 子結めでいんとあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまの
 とのあまのあまのあまのあまのあまの
 まろけんた 栞
あまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまの

伊八さんあまの源明丹入 伊八さんあまのけり



ちや中のやりもはまよとよあしたち何うつくまぬけり二もどりのめを
 おありもさんとあはまらあやごらんもてゆるかりはげのやもい男を
 てゆるやうててはぬやうにをりくひちをあてとどめあ
 とゆるたぬあありこの内をよるとああ「たあうらあ」
 秘ちちやナト内へ 秘ちちさんうちつとあめんへ下へくくる 半
 なんののナはあんまよのいらんぶや 湯介の入りきたぬああを
 とけてとつるまお伊八ああのまろ 半ころやあんが出付あやぐら
 しく火をちのそをへまのり 半ころやあんが出付あやぐら
 ぶとてあらしひらんやくとあかさん炭とりかてか
 くまんり母あまんがサア炭とり 半とろとよりくおやぢ
 さんいどろへいそや母顔目涙のめつらゆた 半まろい
 ぼ中の福ぐひやうぶやあこれやのう極楽のさだへお記
 まゆるぶやらうが母それぢけおつをほくらうらあかぢ

新傳餘師 豊後

五十二 豊後 齋藤

事いあらぬんやコリヤあのころんちもあつたうをたれそつぐ
 いせんうあツツトあややぐ 梅舟かきまわらうかしてせあつたう
半ふまふうけそらなるわき
 あんややらのうふまむんぞんやト こちり 是等おてあひさぬ
 で おひこ ちよるでもあまもど あまも け あまも ち あまも ち あまも ち あまも ち
 ちよるのちとるめああり又 まこちち 博奕の業と女 かひ 養老いころび
 やうと おそや 一夜 うんきやう 檢校の幸多し あまも 七ころびハ あまも 江と あまも 養老の
 うの あまも ことあるべし あまも 志 あまも こと あまも 養 あまも こと あまも 養 あまも こと あまも 養
 と あまも 二のろあり あまも 是 あまも なる あまも 小 あまも 養 あまも 孔雀の あまも あ あまも ころ あまも ざ あまも 始 あまも い あまも 養 あまも 志 あまも の
 こと あまも した あまも う あまも かり あまも の あまも ま あまも ぶ あまも の あまも こと あまも 思 あまも 小 あまも 養 あまも せ あまも 我 あまも 俵 あまも の あまも 小
 なる あまも 象 あまも 牙 あまも の あまも 指 あまも と あまも の あまも 小 あまも あ あまも ころ あまも べ あまも 一 あまも 粒 あまも の あまも 下 あまも の あまも お あまも ころ

あまふうやまひうぐ あまも 兒 あまも と あまも 養 あまも せん あまも ぞ あまも ころ あまも 兒 あまも 物 あまも 下 あまも 終 あまも と あまも なる
 こと あまも する あまも 是 あまも 終 あまも の あまも 皮 あまも より あまも り あまも こと あまも 弦 あまも の あまも 皮 あまも より あまも も あまも 何 あまも ころ あまも 又 あまも 是 あまも 是
 ら あまも かり あまも を あまも た あまも ぐ あまも ぬ あまも ころ あまも 小 あまも かり あまも の あまも 小 あまも あ あまも ら あまも ぞ あまも 漢 あまも 士 あまも ころ
 てる あまも 妓 あまも こと あまも の あまも あ あまも 莫 あまも 愁 あまも 陽 あまも 阿 あまも 翠 あまも 翹 あまも あ あまも ころ あまも の あまも 小 あまも 女 あまも 妓 あまも あ あまも 何 あまも 一
 和 あまも 國 あまも あ あまも てる あまも 白 あまも 拍 あまも 子 あまも と あまも よ あまも び あまも 嶋 あまも 千 あまも 歳 あまも 和 あまも 船 あまも 前 あまも あ あまも ぞ あまも せ あまも ころ あまも 小 あまも 名
 ある あまも の あまも 小 あまも 女 あまも 妓 あまも 者 あまも は あまも 流 あまも 事 あまも と あまも 階 あまも づ あまも じ
 上 あまも 方 あまも あ あまも てる あまも 養 あまも 子 あまも 舞 あまも 子 あまも と あまも い あまも 江 あまも 戸 あまも あ あまも てる あまも 前 あまも の あまも 踊 あまも 子 あまも と あまも い
 ひ あまも ころ あまも 元 あまも 文 あまも の あまも 小 あまも 女 あまも 妓 あまも なる あまも 兒 あまも 衛 あまも 門 あまも 照 あまも 耀 あまも あ あまも ぞ あまも あり あまも 養 あまも 子 あまも 妓
 辯 あまも 天 あまも 豊 あまも 地 あまも 藏 あまも 幸 あまも あ あまも ぞ あまも 江 あまも の あまも 事 あまも け あまも 新 あまも 富 あまも 直 あまも 百 あまも 合 あまも 秋 あまも 小
 ど あまも ち あまも ころ あまも ころ あまも 事 あまも 小 あまも 女 あまも 妓 あまも ころ あまも 唯 あまも 人 あまも の あまも 愁 あまも 事 あまも 小 あまも 養 あまも 志 あまも 小 あまも なる あまも の

新編 御膳 御膳

新編 御膳 御膳

高僧傳 卷之三 三堂精舍 四



たびたびおぼるゝおたふしつゝもたれおぼるゝあらび又鞍の
^{えんげ} おぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝおぼるゝ
^{つなせうつれ} 今好色の世の中にぬのざんまをせし。一生連す女房
^{まん} おあふ腎虚一死ぬもあそくわきと運の二ツ。又い金が
^{おん} たんとおとひとておとつゝいおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝおとつゝ
^{あま} 命をうゝあおあど是ららるゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ命をうゝ
^{あま} しつゝ女の道すゝあまの事して恨あり。世界の人は定規
^{あま} 門よりせわれゝ又そのあふ死して是花の根あうゝあふのあま
^{あま} ぢありのと定規おろちたるるるあまなり。二つあふ命を
^{あま} 一女のあふ捨うあふを自保らゝゝ難を甲ゆふさして

崇傳 絵師 自 十一 三三堂精舍 四

あつとも。愛生男子とのめ。かあふこあひ女たち。なちやち
 男とあまの極楽のひかりがまじやうな事。女が男小
 成たあつらひあつたのめあつたやとけちをうけたやうも。
 二人りのなごうにぬいぢらうでい女が男小をうけうと
 てもぢらうのたのめあ。まやま世でも活きまゐる。あつ
 らが死でもまゐる。うちあつたまゐる。地蔵も。うら
 ひあひまをせあよりあひま。うけま。卯小思案を
 あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ふーたがひ小神のちうをまらひ。移ま。あつた。たか。と。も
 命をキヤンと。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 命をキヤンと。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 んあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 二人りが延命地蔵も。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

申畢

京傳予誌大尾

自跋

夫洒落そまるるも難たがし。黄山谷くわんざんが曰いふ。周茂叔しゅうぼうしが人ひと品ひん甚たが高たかし。胸中きゅうちゆう洒落そまたるる。交光風霽かうかうふうせい月の如ごとし。是等こゝろと洒落そまの親玉おやごまと謂いふ。然しかるるもも世界せかいの洒落そま悉しつ皆みな洒落そまふふ。何なにに於おけり。是予こゝろが志こゝろや。本もとに洒落そまあるる事ことと云いふ。と云いふ。

明治十八年二月十九日 翻刻出版御届
同年三月 刻成出版 濟

定價金三十錢

著者故人

山東 京傳

翻刻出版人

鈴木 金次郎

京橋區銀坐二丁目十番地

發兌製本所

伊勢屋 金次郎

日本橋區通リ二丁目番地

東京地本同盟組合之章



東京府下大賣捌所並諸國賣捌所左

東京府下大賣捌所

東京府下大賣捌所

東京横山町三丁目	辻岡文助	東京橋區南傳馬町三丁目	春陽堂
同同二丁目	鶴聲社	同同區南鍋町	兔屋本店
同馬喰町二丁目	山口藤兵衛	餘八府下書籍店并二繪草紙店ニアリ	
同同町	辻岡龜吉	大坂備後町四丁目	岡嶋支店
同兩國吉川町	大黒屋平吉	尾州本町二丁目	石版舎
同人形町通	武田平次	熊本縣熊本	長崎次郎
同人形町通大坂町	法木徳兵衛	鹿兒嶋縣鹿兒嶋	吉田幸兵衛
同日本橋通三丁目	丸屋鉄二郎	陸前石巻	三陸屋利平
同同通四丁目	金櫻堂	仙臺大町四丁目	木村文助
同青物町	自由閣	阿波徳島	酒井万吉
同日本橋通二丁目	大倉孫兵衛	越後水原	西村六平
同室町三丁目	秋山清吉	同三條	樋口屋書店
同淡路町角	巖々堂	信州長野	西澤喜太郎

明治三十七年五月二十七日

千葉館造

